

## 平成30年度 JABTS 事業活動報告

## 1 編集委員会 尾本きよか

平成30年度は、学会誌出版に向け、委員会を開催し7月に第7巻3号を発行した。

平成31年1月には、第8巻1号を発行した。

2 財務委員会 矢形 寛  
なし

## 3 教育委員会 渡辺 隆紀

2018.3.25 JABTS40教育委員会企画(100分)

「妊娠・授乳期の正常乳腺と良悪性病変のUS画像」

2018.10.7 JABTS41教育委員会企画(100分)

「リンパ節を極める」

〈乳房超音波インターベンション講習会〉

2018.3.24 JABTS40, 東京

2018.5.17 JBCS25, 京都

〈甲状腺ハンズオンセミナー〉

2018.10.27 第51回日本甲状腺外科学会 横浜

2018.11.24 第61回日本甲状腺学会, 川越(JABTS 後援)

## 4 広報委員会 橋本 政典

## ●HP更新

- ・学会誌のPDF版の掲載
- ・学術集会の終了処理など
- ・新理事など更新・役員一覧の改訂
- ・古くなったバナー, 学術集会のリンク切れの修正
- ・委員会・研究部会と責任者更新
- ・平成29年度活動報告UP

## ●mailingリストのUMIN移行

## 5 会則委員会 古川まどか

1. JABTSの一般社団法人化に向けて, 必要経費や手続きのながれについて調査を行った。

2. 功労会員の制定に関して, 細則案を作成した。

3. 定款の矛盾点を解決すべく調査を行うこととした。

## 6 国際委員会 東野英利子

1. JABTS38国際委員会企画として下記の国際シンポジウムを開催した。

JABTS41における国際委員会企画として日本に留学中の先生方3名に演者をお願いした。演者名・所属と講演タイトルは下記である。

・ Dr. Ganbold Tsengel

Department of Radiology, Dokkyo Medical University,

Tochigi, Japan

Current situation of breast screening in Mongolia

・ Dr. Liu Lei

The 3rd Department of Breast Cancer, Tianjin Medical University Cancer Institute and Hospital, Tianjin, China.

Highlight of Breast Cancer Trends and Treatment in China

・ Dr. Sasithorn Sujarittanakarn

Department of Surgery, Faculty of Medicine, Thammasat University, Pathumthani, Thailand

Breast cancer trends and treatment of breast cancer in Thailand

7 乳腺用語診断基準委員会 加奥 節子  
(JABTS40)

乳腺用語診断基準委員会企画としてWFUMB2017(2017.10, Taipei)での委員の活躍について報告を行った。

(多施設共同研究)

・ BC-02 (非浸潤性乳管癌(DCIS)の超音波画像分類に関する多施設共同研究)に関する論文については2題投稿中である。

・ BC-04 (乳房超音波カラー Doppler法の診断基準構築と標準化に関する多施設共同研究)に関する論文がUMBにacceptされた(2019.1.28)。

(その他)

・ 『乳房超音波画像診断アトラス(仮称)』を南江堂より出版予定で, BC-02で使用したDCIS画像を用いて分担加筆中で, 一部は最新の画像も入れて作成に取りかかっている。

## 8 甲状腺用語診断基準委員会 村上 司

1. 『甲状腺超音波診断ガイドブック(第4版)』への改訂作業開始

2. TC-01: 甲状腺結節に対するドプラエコーの有用性についての前向き試験に向けて

3. 福島県「県民健康調査」の甲状腺超音波検査への支援

4. 福島県医師会による超音波講習会および認定試験への支援

5. 第51回日本甲状腺外科学会(2018年10月27日, 横浜市)での甲状腺エコーハンズオンセミナーへの支援(教育委員会との合同企画)

6. 第61回日本甲状腺学会(2018年11月24日, 川越市)での甲状腺エコーハンズオンセミナーへの支援(教育委員会との合同企画)

## 9 倫理委員会 梅本 剛

理事会からの審議事項がなく, 活動はなかった。

10 利益相反委員会 志村 浩己

1)「学術集会」の演者、「機関誌」の著者については、特に違反の報告はなかった。

2)「役員等の利益相反自己申告書」は、140名中120名から提出があった。

3)「役員等の利益相反自己申告書」提出者の中で、COIの申告があった5名については、その状態の判断ならびに助言、指導のため、個人情報の保護に留意し、委員長と委員のダブルチェックで内容を確認した(第41回学術総会時に実施)。その結果、特に問題となる事例はなかった。

4)JABTS「利益相反(COI)に関する指針」改正について審議し、理事会で改正の方向で作業を進めることについて承認を得た。

11 学術委員会 矢形 寛

第1回学術委員会(2019年3月2日, オフィス東京)を開催し、以下の事項について協議した。

(1)委員会・研究部会等の名称変更, 新設と定義

委員会と研究部会のみではそのあり方に無理が生じてきたため議論された。

・「委員会」とは、本学会を運営、維持していく上で必要な事項について審議、決定するために必要な会で、継続的に設置される。

・「部会」とは、本学会の目的を達成していく上で重要な事項について審議するために設置された会で、必要な期間継続される。研究計画書の作成は不要である。

例：インターベンション部会, 検診部会, など

注意：委員会, 部会それぞれ自体では研究は行えない。

・「研究班」とは、本学会の研究を行うために臨時に設置されるもので、2年を期限とする。研究計画書の作成が必要である。

・ワーキンググループとは、本学会の運営上重要な事項について審議、決定するため理事長が必要に応じて臨時に設置し、ワーキンググループ長を指名する。目的が達成された後に解散する。決算報告は必要だが、予算案の作成は不要である。

(2)JABTS研究について

①1つの研究班は1つの研究を行い、各研究に対してJABTSの研究番号が事務局より付与される。

②学会として臨床研究を審査する組織が必要(各施設の中に審査委員会がない場合に利用してもらうため)

倫理委員会, あるいは倫理委員会とは別に倫理審査委員会の設置

③研究部会申請応募要領に以下を追加

・同時に2つ以上のJABTS研究の研究代表者にはなれない。

・研究代表者は研究結果についてしかるべき報告(論文

化等)を行った後、新たなJABTS研究を申請することができる。

・各研究は、JABTS学術委員会での審査とは別に、各施設の倫理審査を経て開始されなければならない。

(3)2019年研究部会について

継続申請(2年目終了)研究部会 8件 審議・審査

(1年目終了)研究部会 1件 審議・審査

(3年目終了)研究部会 1件 審議・審査

新規申請 3件 審議・審査

(4)2019年委員会について

各委員会の事業報告, 決算報告, 事業計画, 予算書の確認

12 将来検討WG 渡辺 隆紀

将来検討WG委員：沢田晃暢, 志村浩己, 坂佳奈子, 福成信博, 渡辺隆紀

オブザーバー：鈴木真一

乳腺グループ委員：位藤俊一, 植松孝悦, 尾羽根範員, 加奥節子, 沢田晃暢, 角田博子, 坂佳奈子, 矢形 寛, 渡辺隆紀

(2018年度の活動内容)

2018.4.15 第一回将来検討WG会議(東京)

2018.9.1 第二回将来検討WG会議(東京)

2018.11.23 第一回乳腺G会議(JABTS大阪)

2018.12.16 第三回将来検討WG会議(東京)

2019.2.9 第二回乳腺G会議(仙台)

2019.2.11 第四回将来検討WG会議(東京)

(方針の概要)

今後のJABTSの発展のために、社会的な貢献にもなりうるような何らかの制度(例えば専門医制度や認定制度など)について議論がなされた。その結果、甲状腺領域に関しては、病理検査時の超音波ガイド下穿刺の専門医制度と技師・看護師を対象にしたコーディネーター認定制度を目指すことになった。乳腺領域では専門医制度や認定医制度は困難であり、超音波ガイド下の穿刺手技の実技講習と必要な知識について学ぶ座学講習をセットにした講習会の開催が検討されている。次年度はそれぞれの制度の具体的内容を決める作業を行う予定である。

13 甲状腺結節D/W研究部会 福成 信博

平成30年度からの研究部会(継続)時において、これまでの集積された症例の検討から、今後の研究課題を以下の様に決定し、追加研究項目とする。

・縦方向のD/Wは測定評価からは除外する(追記としてデータは集積)。

・横断像によるD/Wのみを対象項目とし、cut-off 1.0の感度、特異度の検討を行う。

・計測時の圧迫や縦隔方向への斜め断面における計測誤差を検討する。

・悪性腫瘍におけるD/Wの変化を病理学的所見から推察する。

集約されたD/Wのデータは以下の項目に関して、検討を行った。

- ・登録症例の各組織型別の症例数
- ・良性・悪性間における有意差検定, ROC解析による閾値の設定, 評価
- ・病理組織型別の評価
- ・腫瘍径別の評価

〈第40回JABTS 2018年3月24日, 25日(京王プラザ)〉

甲状腺D/W研究部会「甲状腺結節診断における超音波D/Wの意義と有用性」を開催した。上記のデータに項目に関して最終的な検討がなされた。

2020年内に論文(英文誌)へ投稿する。論文はoriginal paperであり, 登録施設代表責任者全員の共著とし, 登録数の最多施設の代表責任者が筆頭著者となることから, (旧)隈病院外科, (新)昭和大学横浜市北部病院外科の福島光浩が筆頭著者となり, ThyroidまたはJCEMへの投稿することが決定された。

英語表記をTaller than wide findingに定め, 参考文献の抽出を行う。

14 | 乳がん検診研究部会 坂 佳奈子

1. JABTS41において乳がん検診研究部会企画「検診にも役立つ乳房超音波～私の工夫」で全国の5名の乳房超音波に携わる女性技師の講演のセッションを行った。

2. かねてより研究してきた検診における混合性腫瘍のカテゴリーの見直しであるが, 乳がん検診研究部会企画で二回にわたり, 部会に所属している施設を中心とした検診施設での症例で検討し, 検診で発見される混合性腫瘍の中で純粋な混合性腫瘍でかつ自覚症状のないものに関してはがん症例がないという結論になっていたが, 研究部会にかかわる施設のみでは全国データといえないのではないかという指摘をいただいた。それに従って2018年4月～6月にかけて全国の16検診施設にさらに郵送およびウェブによるアンケート調査を実施した。それらの施設に関してもがん症例がないことを確認している。

3. 『ガイドライン(第4版)』の改訂が2019年度に予定されているが, その改訂において, 検診フローチャートの妥当性を証明するために部会員に分担し, フローチャートのボックスごとの論文的検証を行った。次回のガイドラインの改訂に参考資料として用いる予定である。

15 | インターベンション研究部会 矢形 寛

2016年11月にインターベンション研究部会より刊行した『乳房超音波ガイド下針生検マニュアル』を十分に普及させるため, 2018年3月, 10月の各学術集会で, 内容の紹介としてミニレクチャーを行った。また, 同学術集会にて従来より企

画継続している「ケースカンファレンス——次の一手は」も合わせて行った。

2018年5月の日本乳癌学会にて開催された, 教育研修委員会, JABTS教育委員会主導のインターベンション講習会に協力した。

16 | バーチャルソノグラフィ研究部会 明石 定子

Fusion01の報告

1) Nakano S, et al, Impact of MRI and ultrasound image-fusion guided biopsy for MRI-detected breast lesions(2018.3 ヨーロッパ放射線学会)

2) 中野正吾ら, 乳房MRI non-mass enhancementの乳房温存手術切除範囲決定におけるRVSの応用:多施設共同試験に向けて(2018.3 第40回日本乳癌甲状腺超音波医学会)

3) 中野正吾ら, 乳房画像診断における超音波fusion技術を応用したsecond-look USの有用性(2018.4 第118回日本外科学会)

4) 中野正吾ら, 超音波fusion技術を用いたsecond-look USによる乳房MRI造影病変の検出 MRI検診精査への応用を目指して(2018.5 第26回日本乳癌学会)

5) 中野正吾ら, 骨髄癌症の原発巣精査において非触知乳癌の同定にRVSが有用であった1例(2018.10 第41回日本乳癌甲状腺超音波医学会)

6) 二村学ら, バーチャルソノグラフィの乳腺外科領域における臨床応用(2018.10 第41回日本乳癌甲状腺超音波医学会) Fusion02の立案

JABTS40, JABTS41にあわせて, 研究部会会議を開催。術前薬物療法前後でのUS同士のFusionなども検討したが, 最終的に「乳房MRI non-mass enhancementの乳房温存手術切除範囲決定における超音波fusion技術(Real-time virtual sonography / Volume navigation)の有用性の検証(多施設共同前向きコホート研究):FUSION02」にまとまった。2019年1月の愛知医大のIRBで承認を得た。参加施設も随時IRBの承認を得て開始していく予定である。

17 | フローイメージング研究部会 平井都始子

1. これまでの経過報告

造影超音波を用いた乳腺病変の造影パターンについての検討

乳腺病変に対する造影超音波について, 造影パターンの視覚評価基準の作成と良悪性の鑑別診断における感度・特異度・正診率および確信度を明らかにする目的で, 多施設共同研究を開始。9施設から218症例がエントリーされた。代表的な30症例について評価者の目合わせをした上で, 188例についてブラインドリーディングを実施し, その結果の一部をJABTS40で発表した。

JABTS41では乳房造影超音波検査における良悪性の診断基

準の所見について単変量解析の結果を示しながら、一致率の高かった造影所見と良性、悪性の代表例を提示した。

## 2. 今後の予定

2019年3月までにBモードのみ、Bモード+ドプラ、Bモード+ドプラ+CEUSの良悪性鑑別診断における感度、特異度、正診率、および確信度を比較し、それぞれの検査の上乗せ効果を検証する。その結果をJABTS42で発表することを2018年11月30日のSkypeミーティングで確認した。

また、2019年7月の第27回日本乳癌学会総会で、乳房造影超音波検査における良悪性の鑑別診断基準(所見)について単変量解析、多変量解析の結果を報告することが了承された。今後、2019年9月のWFUMBにおいて乳房造影超音波検査における良悪性の鑑別診断基準の所見について実際の症例を交えて発表すること、造影超音波の評価基準(案)を提示し論文化し、JABTS学会誌に投稿すること、などを予定している。本研究部会は予定されていた研究期間が2019年3月で終了する。研究もデータ整理が済み、統計家に最終確認をする段階に入っている。論文化のみであれば研究部会を存続させる必要性も低く、平成30年度をもって、フローイメージング研究部会は終了とさせていただく。

## 18 エラストグラフィ研究部会 椎名 毅

### 1) エラストグラフィの精度管理に関するシンポジウムの企画

JABTS41で、機種間比較について企業に各社のエラストグラフィの特徴を紹介してもらうスポンサードセッションを企画した。

・第41回JABTS学術集会 2018年10月7日

研究部会企画 スポンサーセッション「エラストグラフィを使いこなす」

今後の課題として、肝臓エラストグラフィに関しては、米国QIBAで、ファントムを用いてSWEに関する装置間の比較と評価法の統一化を進めているように、乳腺エラストグラフィでも標準ファントムの作成が必要と思われる。

### 2) 超音波AI研究の動向調査

超音波画像データのAI技術利活用の視点から、日本超音波医学会で始まった、AMED事業では肝臓と乳腺の腫瘍像が対象になったことから、情報交換を行った。現時点では、Bモードが中心であるが、今後、エラストグラフィも加えたAI診断により診断制度の向上が期待できるため、JABTSでの検討が必要と思われる。

## 19 精度管理ファントム研究部会 桜井 正晃

1. JABTS41で精度管理ファントム研究部会報告を行った。
2. 改良を加えた精度管理用ファントムが完成した。
3. 完成したファントムを部員6施設で検討した。
4. 2017年6月から岐阜医療科学大学の篠原範充先生によ

るファントム画像のデジタル評価が開始した。

- ・解析対象は毎月、月末の画像
- ・解析項目：ターゲットとバックグランド解析

5. 故障プローブを含めた様々なプローブで撮像したファントム画像を用いて、デジタル評価の有用性の検証を行った。
6. 画像劣化の事例の蓄積を行った。

## 20 乳房造影超音波における乳がんの広がり診断に関する研究部会 奥野 敏隆

### 平成29年度までの事業経過報告

2016年10月に研究計画書 第1版作成

2017年1月18日まで改訂を重ね、第1.6版として確定した。

2017年5月27日(JABTS 38th)にキックオフミーティングを開催した。

2017年11月2日、11月8日にSkypeでのミーティングを経て症例登録を開始した。

2018年3月までに153の乳がん症例の登録が得られた。

2018年3月24日(JABTS 40th)ブラインドリーディングの評価統一のためのミーティングを開催した。

平成30年度の事業経過報告

2018年4月～6月 ブラインドリーディング

7月～9月 解析作業施行

2018年10月 JABTS 41th: 研究部会報告「乳房造影超音波における乳がんの広がり診断に関する研究(evergreen試験)報告」として、試験概要、研究者評価による計測結果とその解釈について報告した。

2018年11月30日 Skypeによるミーティング:ブラインドリーディングによる計測結果の解析結果を踏まえ、その解釈、今後の発表方法について協議した。2019年7月の第27回日本乳癌学会に試験結果を報告することを決定した。さらに2019年12月のサンアントニオ プレストキヤンサー シンポジウムに演題応募、英文誌への投稿、JABTSの学会誌への研究部会報告の投稿を予定している。

## 21 リンパ節診断研究部会 古川まどか

2018年3月JABTS40において、まず、本研究会の今後の方向性を決め、活動計画を立てるために、乳腺甲状腺超音波医学会として対象とすべき表在リンパ節について、頭頸部(甲状腺を除く)、乳腺領域(腋窩)、甲状腺周辺、その他(鼠径部など)といった部位的な疾患およびそのエコー像の違い、臨床的な特徴と問題点や観点などについて、各領域のリンパ節疾患別に研究会構成メンバーの講演を研究会企画として行うことで、情報収集を行った。さらに、この学会の中で研究会としての会議を開催し、本企画の全体としてのまとめ、今後の本研究部会の方向性について討議を行った。

その結果、各領域のリンパ節疾患とその臨床的取り扱いが大きく異なることがわかったため各領域でのリンパ節超音波診断の意義と臨床的特徴につままとめていく方針とした。具

体的には、JABTS41で、各領域の委員会とのコラボレーション企画を設け、各領域の中でのリンパ節超音波診断の位置づけについて明確にすることとした。

2018年10月JABTS41では、甲状腺用語診断基準委員会、教育委員会と、リンパ節診断に関する企画を設け、甲状腺、乳腺の超音波診断の中でのリンパ節診断という側面で発表および討論を行った。これまで、明快な診断方法が確立されないままにきたリンパ節疾患に関して、多くの会員に興味を持っていただくことができた。

今年度の2回の学会に合わせた活動だけでも、リンパ節疾

患の超音波診断に関して、非常に多くの反響を得ることができた。これまで不明確なままであったリンパ節超音波診断について学びたいという希望が非常に多く、需要がとて多いことがわかった。

引き続き、リンパ節超音波診断の手技、用語や診断基準の標準化など、本学会でしか実現できないテーマについて、研究会の内外を問わず多くの会員のご意見を頂戴しながら、JABTSのリンパ節診断研究部会活動として整備していきたいと希望している。